

# 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

研究機関名： 弘前大学大学院医学研究科  
麻酔学講座  
研究責任者： 野口 智子

当院では患者さんの試料・情報を利用させていただき、下記の臨床研究を弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、下記連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

**臨床研究名称** 帝王切開脊髄くも膜下麻酔時にモルヒネの添加が呼吸に及ぼす影響の検討

## 研究の目的

帝王切開術では近年、術後深部静脈血栓症予防に早期の抗凝固療法が施行される症例が多くなりました。このため脊椎麻酔単独で施行する場合は、局所麻酔薬にモルヒネを添加することで術後長時間の鎮痛効果を得ることができます。その一方でモルヒネによる遷延性の呼吸抑制に注意が必要になります。経皮的酸素飽和度の計測が最も簡易的ですが経皮的酸素飽和度が低下した際には重篤な呼吸抑制がすでに生じている場合があります。このため呼吸数や呼気中の二酸化炭素濃度の測定が呼吸抑制の早期発見のために重要と考えられ、この結果により適切なモルヒネの添加量を検討することでより安全な周産期管理の施行が可能となります。

**研究実施期間** 2023 年 11月8日 ～ 2028 年 3月 31日

**対象となる方** 2015 年 1月～2022 年 12月までの間、附属病院産婦人科を受診し、脊椎麻酔で帝王切開術を受けた方

## 利用させていただきたい試料・情報について

当院のカルテに記録されている情報のうち、手術時間や麻酔時間、脊椎麻酔レベル、呼吸数や経皮的酸素飽和度、採血結果について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、脊椎麻酔施行後の呼吸数の変化や経皮的酸素飽和度の推移を検索しモルヒネ投与後どの程度影響が残存しているか検討します。また、血液ガス分析の結果と呼吸苦等の主観的な訴えと併せて呼吸状態を評価します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

## 外部への試料・情報の提供

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合は下記へご連絡ください。患者さん／その代理人の方から、試料・情報の利用停止を求める申し出があった場合は、当

該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

**本件連絡先**

大学院医学研究科麻酔科学講座・野口智子  
[0172-39-5113/nogusato1110@hirosaki-u.ac.jp](mailto:0172-39-5113/nogusato1110@hirosaki-u.ac.jp)